

ご使用前に必ずお読みいただきたいこと ダイビングに際しての注意事項 必ずお読みください

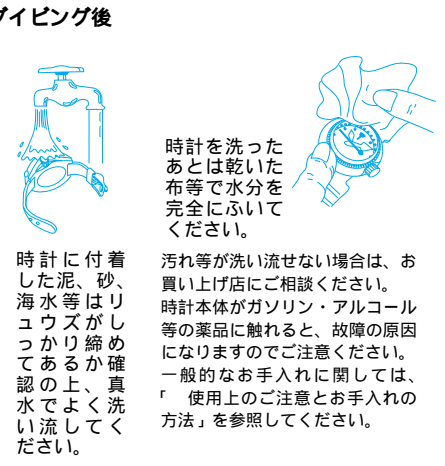
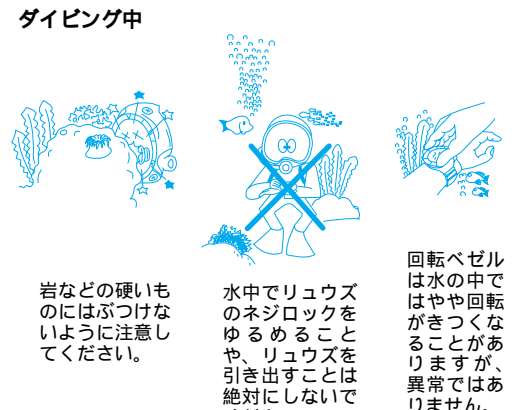
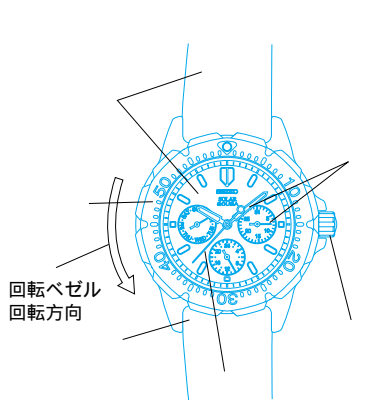
警告

- ・潜水中は、本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。
- ・ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。(空気ポンプを使用する潜水用)

注意

- ・この時計を実際のダイビングに使用される時には、ご使用前に正しく作動しているか、点検をしていただくと共に、使用中の注意については操作方法の項目に記載されている注意事項をよくお読みください。
- ・ダイバーズウォッチのご使用にあたっては、各種のダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、それに従ったルールを守ってご使用ください。

ダイビング前
次の項目を点検してください。
リュウズのネジがしっかりと締めてあること。
バンド、ガラスにヒビ、カケ等の異常がないこと。
バンドと本体がしっかりと固定されていること。(パネ棒、止め金等)
回転ベゼルが正常に回転できること。(時計と逆回りが正常な回転方向です。)
時刻・カレンダーが正確にセットされていること。
秒針が2秒運針(一度に2目盛り送っている状態)になっていないか。2秒運針の場合は、そのまま、ダイビングに使用しないでください。(「充電のしかた」を参照してください。)



製品の特長

この時計は『光』エネルギーによって動きます。

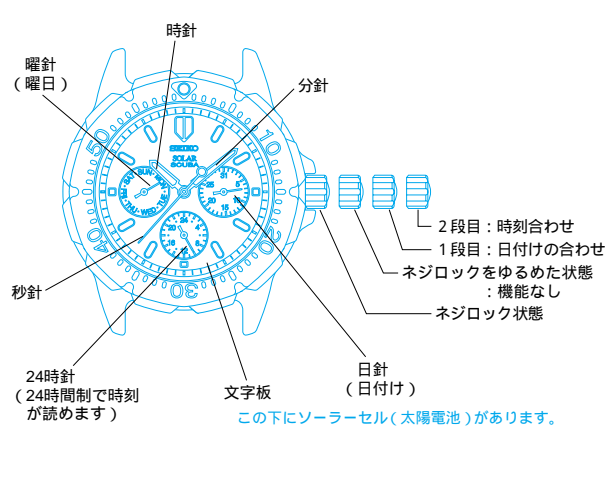
文字板の下にあるソーラーセルが、受けた光を「電気エネルギー」に換えます。

- ・フル充電で約6か月動き続けます。「電池交換」は不要です。
- ・一般的なクォーツのような酸化銀電池を使用しておりませんので、「電池交換」は不要です。
- ・長時間、放置しておいても、再び『光』を当てることで、時計が動きまします。
- ・「エネルギー切れ予告機能」付きです。
- ・充電量がわずかになると、秒針が「2秒運針」になって、充電が必要になったことを知らせてくれます。
- ・2秒運針になったら、約3日以内に止まる可能性を示します。「即スタート機能」付きです。
- ・止まっている時計に、光を当てるとすぐに動き始めます。一般のクォーツウォッチとは違い、旅行中や海外での使用時などに電池切れを気にすることなくご使用いただけます。

この時計は通常の時・分・秒のほか、24時・日付け・曜日も針で示す多軸時計です。

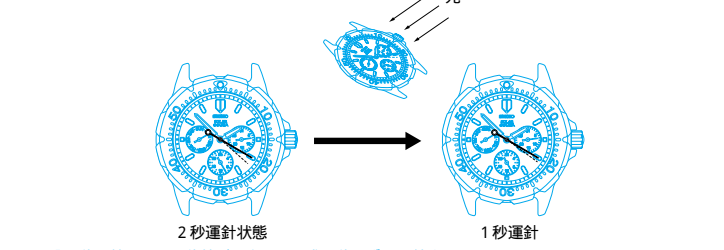
24時針は時針に連動して動きます。単独の修正はできません。曜日を示す曜針には、修正機構がありませんので時刻合わせの際、時・分針を回して合わせる必要があります。(「曜日の合わせかたと時刻の合わせかた」を参照)

各部の名称とはたらき



ご使用にあたって 充電のしかた

- ・止まっている時計を動かす場合や、充電量が少なくなったら、光にあて充電してください。
- ・太陽光や強い(1000ルクス以上の)光に時計を当てると、止まっている時計も2秒運針で動き始めます。(即スタート機能)



注意 (充電時のご注意)

- ・充電の際、写真照明ライト、スポットライト、白熱ライト(球)などに、近づけ過ぎると、時計本体が高温になり、内部の部品等が損傷を受ける恐れがありますのでご注意ください。
- ・太陽光にて充電する際も、車のダッシュボード等では、かなりの高温となりますので、ご注意ください。
- ・時計本体が50℃以上にならないようにしてください。

充電所要時間の目安

照度 lx(ルクス)	光源	環境 (目安)	フル充電までの 充電所要時間	確実に1秒運針になる までの充電所要時間	1日動かすために必要な 充電所要時間
500	白熱球	60W 60cm	約250時間	約15時間	約1時間
700	蛍光灯	一般オフィス内	約175時間	約11時間	約50分
1000	蛍光灯	30W 70cm	約120時間	約6時間	約30分
3000	蛍光灯	30W 20cm	約40時間	約2時間	約10分
5000	蛍光灯	30W 12cm	約22時間	約80分	約6分
1万	蛍光灯	30W 3cm	約10時間	約30分	約3分
1万	太陽光	曇天	約10時間	約30分	約3分
10万	太陽光	快晴	約3時間	約8分	約1分

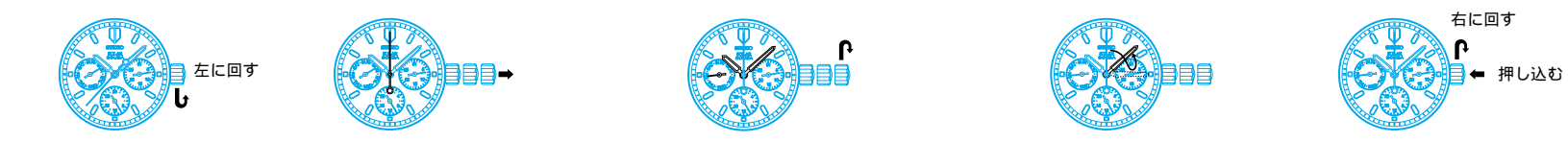
上記の表の数値は目安としてご使用ください。

この欄にある数値は、止まっていた時計に光をあて、「2秒運針状態」から脱し、「確実な1秒運針」になるまでに必要となる充電所要時間です。この所要時間まで充電しなくても、1秒運針になりますが、その状態では、すぐに2秒運針になる場合もありますので、この時間を目安に充電してください。

上記の充電に必要な時間はモデルによって若干異なります。

ご使用方法 曜日の合わせかたと時刻の合わせかた

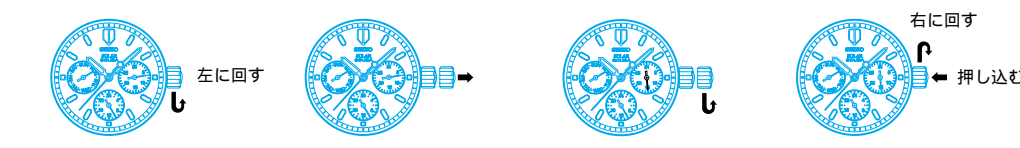
- ・この時計には曜針の修正機構がありませんので、時刻合わせの前に時・分針を回して曜日を合わせることははじめます。



- 1 リュウズを左に回して、ネジロックをゆるめます。
- 2 秒針が、ちょうど「0秒」の位置に来たとき、リュウズを2段目まで引き出してください。時計が止まります。
- 3 リュウズを右に回し、時・分針を進めていき午前0時を通過すると、曜針が動き始めます。曜針が次の曜日を差し示すまでさらに時・分針を進めてください。曜針をさらに送る必要がある場合は、ここで逆に、時・分針を4～5時間分戻してから、再び進み方向にリュウズを回すと、曜針を早く進めることができます。これを繰り返して曜日を合わせてください。リュウズの回転は静かに行ってください。
- 4 曜日を合わせたら、時刻合わせをします。午前午後を間違えないように、時刻を合わせてください。(日付は24時間に1度変わるように設計されています。)正確に合わせるために、分針を合わせる時刻より4～5分位進めてから、逆に戻して合わせてください。時刻合わせには、電話時報サービス117が便利です。
- 5 合わせた時刻の時報を待ち、時報と同時にリュウズを押し込んでください。リュウズを押しつけながら、止まるところまで、しっかりとネジ込んでください。

日付の合わせかた

- ・時刻合わせをした後、日付けを合わせ直すとき。
- ・前月が小の月(1カ月の日数が30日の月と2月)で月始めの日付けの修正のときに行います。



- 1 リュウズを左に回して、ネジロックをゆるめます。
- 2 リュウズを1段目に引き出してください。
- 3 リュウズを左に回して日付けを合わせてください。
- 4 合わせ終わったらリュウズを押し込んでください。さらに、リュウズを押しつけながら右に止まるところまでしっかりとネジ込んでください。

日針の動きを確認しながら合わせてください。時計の針が、午後9時～午前1時にあるときは日付けの合わせをしないでください。合わせができなかったり、合わせても次の日に日付けが正しく送られないことがあります。

使用電源について

- ・この時計には、一般の電池とは異なる専用の2次電源を使用しておりますので、電池交換は不要です。
- ・この2次電源は、環境に対して影響の少ないクリーンなものです。

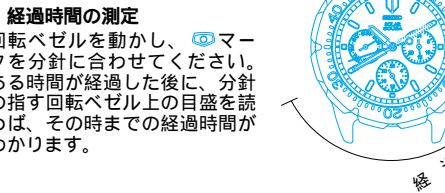
警告 破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、一般の酸化銀電池は絶対に組み込まないように、ご注意ください。万一組み込まれても、専通がとれない構造になっています。

携帯中に「2秒運針」になった時

- ・エネルギー残存量予告機能がはたらくと、「2秒運針」になります。この運針に切替わった場合、約3日以内に時計が止まる可能性がありますので、充電してください。
- ・充電は、「充電所要時間の目安」を参考に十分充電してください。
- ・安全上、この状態でダイビングに使用することはできません。

回転ベゼルの使いかた

右図は10時10分潜水開始(位置)後、30分経過したことを示しています。



経過時間の測定
回転ベゼルの動かし、マークを分針に合わせてください。ある時間が経過した後、分針の指す回転ベゼル上の目盛を読めば、その時までの経過時間がわかります。

回転ベゼルは時計と逆まわりしか回転しません。又、クリック装置がついていますので、目盛のセットがしやすいと同時に、ショックなどで不用意に回転することを防ぎます。

ルミブライトについて

【お買い上げの時計がルミブライトつきの場合】
「ルミブライト」は、放射能等の有害物質を全く含んでいない、環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)物質です。

ルミブライトは、太陽光や照明器具の明りを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3～5時間)光を放つ夜光です。なお、蓄えた光を発光させているので輝度(明るさ)は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生じることがあります。特に暗い環境での潜水の際は、光が十分に吸収されていないと水中で発光しない場合があります。最低でも上記条件の光をあてるか、水中ライトを併用して潜水される様、十分ご注意ください。

照度データ(目安値)
A 太陽光(晴天) 1100,000ルクス(曇天) 110,000ルクス
B 屋内(昼間窓側) 1晴天 13,000ルクス以上(曇天) 1,000ルクス～3,000ルクス(雨天) 1,000ルクス以下
C 照明(白色蛍光灯40Wの下で) 1m 11,000ルクス(3m) 1500ルクス(通常室内レベル) 4m 1250ルクス

バンドの伸展機構について

メタルバンドで、ダイバーエクステンダー機構がついている場合、下記をご参照ください。ウェットスーツの上に着用する際に便利な機構です。

